

事例6 チェーンメールって何ですか

指導のポイント

<ねらい>

チェーンメールはネチケットのガイドラインで禁止されており、受信者に迷惑をかけると共にネットワークに多大な負荷を与えることを理解させます。

<学習の場面>

朝の会、帰りの会でチェーンメールが送られてきたときの対処の仕方について説明します。

学級活動や道徳の授業の中で時間をとり、チェーンメールを転送するとどんな迷惑がかかるかを児童生徒に考えさせます。

<指導上の留意点>

どんなメールがチェーンメールかを理解させます。

チェーンメールとは不幸（幸福）の手紙の電子メール版のことで、「このメールを転送してください。」と不特定多数の人にメールの転送を要求するメールをいいます。転送を要求しない普通のいたずらメールとは区別されています。

チェーンメールはなぜ悪いかを理解させます。

ある人がチェーンメールを10人に送ります。受け取った人のうちの2人がまた10人にメールを転送すると仮定します。これが1時間に1回起こるとすれば、24時間後、つまり24回目の転送では、1,677万人の人が10通ずつメールを転送しようとするようになります。つまり、チェーンメールが不特定多数の人に無限に転送されると、ネットワークに大変な負担がかかることになるので、チェーンメールは厳重に禁止されています。

チェーンメールにはいろいろな種類があることを理解させます。

チェーンメールは、恐怖系、幸福系、デマ系などいろいろな文面で転送を呼びかけます。もちろんこれらのメールの内容は全て嘘であることを理解させます。